

研究事例 1

英語 I における「導入」「内容理解」「表現活動・定着活動」に関する様々な指導事例

1 生徒の実態及び課題の設定～英語に関する事前アンケート結果から～

(1) 事前アンケート

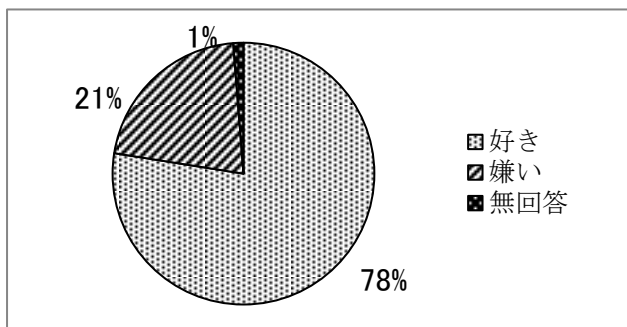
英語学習に対する意識を調査するために、平成 24 年 6 月に、以下のようなアンケートを実施した。今回のアンケートの調査対象は第 1 学年 80 名で、英語 I を 4 単位履修している。

<実施したアンケート項目>

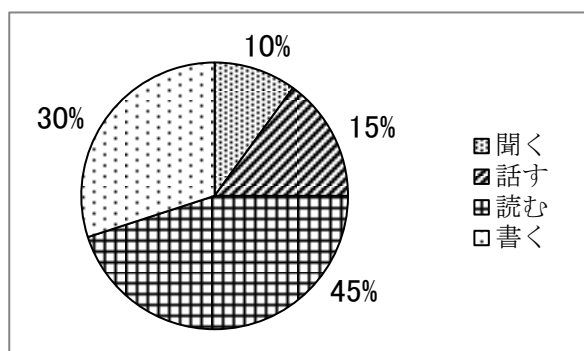
- 1 あなたは英語が好きですか？
- 2 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も得意なことは何ですか？
- 3 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も苦手なことは何ですか？
- 4 生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするために授業を英語で行うことについて、あなたはどのように思いますか？
 - ①先生がたくさん英語で質問したり、説明したり、指示をしたりすることについて。
 - ②自分が英語で質問に答えたり、ペアワークをしたり、発表をしたり、意見を書いたりすることについて。
- 5 英語の授業の中でどのようなことをしてほしいですか。(自由記述)

<アンケート結果>

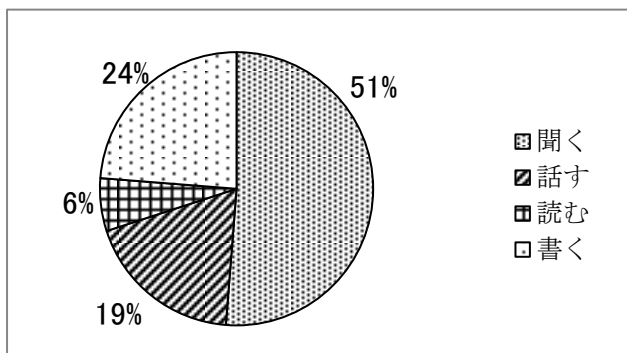
1 について



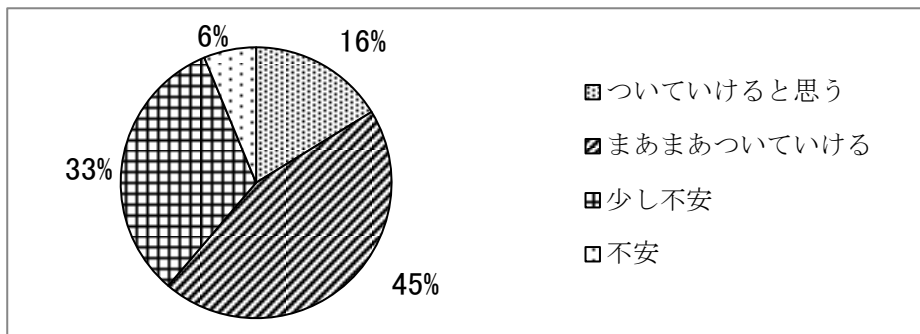
2 について



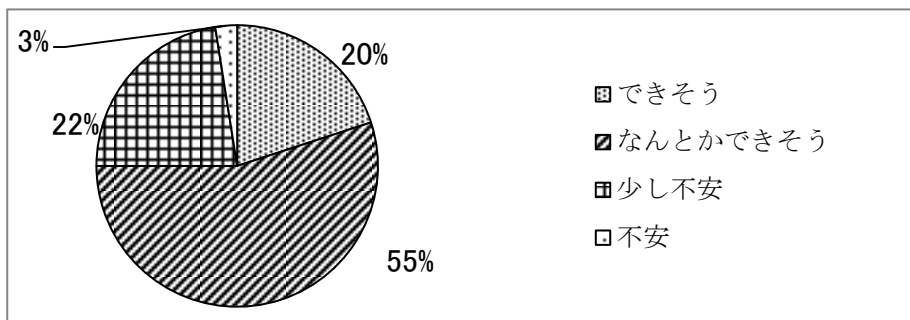
3 について



4①について



4②について



5について <主なものを抜粋>

- ・大勢の前で英語を話すのは緊張するので、グループワークやペアワークを増やしてほしい。
- ・自分で考えて話す時間を増やしてほしい。
- ・音読練習をしたい。
- ・もっと英語で会話をして、英語を話すことに慣れたい。
- ・文法をしっかり教えてほしい。
- ・実際に使える英語の表現や日常会話をもっと教えてほしい。
- ・自由英作文を書きたい。
- ・リスニング対策をしてほしい。
- ・日本語で授業をしてほしい。

アンケートの結果、約8割の生徒が英語を「好き」と思っていることが分かった。また、「読む」ことを得意とする生徒が半数近くいた。これは授業中に、訳読も含めた本文の読み取りに多くの時間を割いていたり、予習として教科書の本文を訳していたりすることに原因があるのではないかと思う。苦手なことに関しては、「聞く」ことが最も多く半数以上を占めた。「聞く」ことに対して苦手意識をもつ生徒の数は、「話す」ことに対して苦手意識をもつ生徒の数の倍以上であった。活動の指示のように内容が予測できるものであれば「聞く」ことができるが、本文の内容を理解するための説明や本文の言い換えなどを英語で聞き取って理解することは難しいと感じているのではないかと考えられる。授業中に生徒自身が英語を使用することについては、75%の生徒が不安を感じていないと回答しており、自分が英語を使用することに対してよりも、教師が英語を使用することに対する不安の方が大きいことが分かった。「書く」ことに対して苦手意識をもつ生徒が24%おり、自由記述でも定型だけでなく自由作文なども取り入れて、「書く」活動を増やしてほしいという要望が多くあることが分かった。

(2) アンケートから考える課題と到達目標

「聞く」ことに苦手意識をもったままでは、授業を英語で行うことや、英語でコミュニケーションを図ることは難しいと考える。「聞く」機会を授業の中で増やすことが必要であるが、苦手意識がある生徒が多いため、内容理解を英語で進める際には、ワークシートや板書などを工夫して、生徒の理解を助ける必要がある。また、教師が一方的に内容を英語で説明するのではなく、分かりやすい発問を繰り返し、理解度を確認しながら進めていく必要もある。さらに、日本語での解説が必要な部分と英語のみでも行える部分とを教師が見極めることも重要である。特に、未知の単語や熟語は聞き取りが困難であると考えられるため、内容理解に入る前の新出語句の確認は音読までしっかり行い、十分に慣れさせるような指導の工夫も必要になる。

「書く」ことに関しては、定型作文だけではなく自由作文も実施してほしいという要望が多かったことから、生徒の「自分のことや意見を英語で表現したい」という気持ちを生かして、「書く」力を伸ばしていく活動を工夫する必要がある。

このような指導を通して、英語での内容理解に関する質問に対して、教科書の本文からの抜き出しだけではなく自分の言葉で答えられる力や、書かれている内容などについて、自分なりの意見を持ち、それを相手に伝えたり、相手の意見を聞いて理解したりできる力を身に付けさせることを到達目標とした。

2 本研究の流れ

本研究では、Lesson 2 When I was sixteen と Lesson 3 Abu Simbel-Rebirth on the Nile-において、「導入」「内容理解」「表現活動・定着活動」として下表にある10の事例を授業の中で実践した。

使用教科書：CROWN English Series [I] (三省堂)

	導入	内容理解	表現活動・定着活動
L 2	・英語による Oral Introduction (事例1)	・教師による英語での内容解説 (事例3) ・教師による英語での内容解説と生徒同士での英問英答 (事例4) ・筆者の主張の読み取り (事例5)	・ペアでの意見交換(事例8) ・Story Retelling (事例9)
L 3	・CDを活用した本文の導入 (事例2)	・日本語ワークシートを基にした Story Retelling (事例6) ・自分で描いた絵を用いての英語での本文説明 (事例7)	・置換法によるペアでの音読練習 (事例10)

3 実践内容

(1) 「導入」に関する活動

事例1 英語による Oral Introduction

ア 指導手順

(ア) 教師が、英語で本文に関する簡単な問いかけをする。

(イ) 一斉に、又は指名して答えさせる。

イ 留意点

(ア) 教師の発話の中で、新出単語を簡単な語で言い換えたり、熟語を用いたりする。

(イ) 全員が英語で考える場面とするため、教師の問いの後、周りの人と相談してもよいことにする。

(ウ) 内容を全て説明しないようにして、生徒に「続きを知りたい、読みたい」という気持ちをもたせるようにする。

<授業での実際のやりとり> (Lesson 2 Section 2 での指導例)

T: Now Hoshino got money and he is ready to go to America. Do you know where he lived then?

S: (Silence)

T: He lived in the prefecture to the south of Ibaraki and to the east of Tokyo.

S: Chiba!

T: That's right. But he didn't leave Japan from Chiba Port. From which port did he leave Japan?

S: Yokohama.

T: Yes. He left Japan from Yokohama Port. Do you know the name of the ship?

S: (Silence)

T: I think you can find the answer in the picture on page 24.

S: Ar...gen...ti..na?

T: Good. The name of the ship was 'Argentina.' It was a ship to carry immigrants or emigrants to a foreign country. Immigrants or emigrants are people who move to another country to start their lives in that country.(←板書しながら) Can you tell me the meaning of these words?

S: 移民。

T: Right. Argentina was a ship to carry immigrants or emigrants to another country. Now, do you know how long it took for him to go to America by ship?

S: (Silence)

T: I think you can find the answer in Section 2. Can you find the answer?

S: あった。Two weeks.

T: OK. Now let's read Section 2.

本文に関連した情報をあらかじめ調べておき、本文に書かれていないことをヒントにして考えさせるように工夫した。生徒が見落としてしまいがちな教科書の写真も Oral Introduction で取り扱える材料になった。生徒は予習として本文に目を通してきているので、それをもとにすぐに答えられそうな発問と、考えたりヒントをよく聞き取ったりしないと答えられない発問とを混ぜながら実施した。

事例 2 CD を活用した本文の導入

ア 指導手順 (Lesson3 Section2 での指導例)

- (ア) ワークシート<資料1>を配布し、設問を確認させる。
- (イ) 本文の内容に関する CD を聞かせる。
- (ウ) 答えを記入させる。
- (エ) ペアで答えを確認させた後、口頭で数人に答えを言わせる。

<資料1>

Q: What were the problems about the Nile and Egypt?

- ①
- ②

想定した解答 ① The Nile flooded every year and farmers working along the river suffered from the disaster.

② As the population in Egypt grew, more electricity was needed.

生徒の解答 ① The Nile flooded every year.

② Making a dam will make problems. / There already was a dam, but it didn't work well.

事前アンケートで「リスニングの練習をしたい」という意見が多かった。ALTに本文の要約を作成してもらい、さらに、それを録音してもらい、CDを作成した。ネイティブの英語で聞き取りをさせる機会として実施した。①に関しては予想通りで、後半の suffer from など未習のものは聞き取れない生徒が多かった。②に関しては、様々な答えが出たが、どれも間違っていないため、正解とした。その上で、In addition という表現を教え、それに注意して聞くように促し、再度 CD を聞かせた。

設問をシンプルにしすぎたために様々な答えが出てしまったが、本文をよく理解するために必要な情報を生徒に確認させることができ、結果的には効果的な導入になった。

<資料2>

(2) 「内容理解」に関する活動

事例3 教師による英語での内容解説

ア 指導手順 (Lesson 2 Section 1 での指導例)

- (ア) ワークシート<資料2>を配布する。
- (イ) CD で本文を聞かせる。
- (ウ) ワークシートの空所に入る答えを生徒に尋ねながら、教師が英語で内容をパラフレーズして解説する。

イ 留意点

- (ア) 英文をパラフレーズする際は、中学校での履修語を中心に、できるだけ生徒が理解しやすい単語を用いるようにする。

★<PREPARATION QUESTIONS> Section 1

(1) What was Hoshino's dream?
It was to cross the ocean by ship and to hitchhike across America.

(2) He had two problems to realize his dream. What were they?
One was: money. / people around him were against his plan
The other was that people would tell his father not to allow his son to go on such an adventure.

(3) What did Hoshino do to realize his dream?
He got part-time jobs to save money.

(4) Who helped Hoshino and how? His father did. His father gave him money for the trip.
His father gave him money for the trip.

(5) What did people tell Hoshino's father?
They told him not to allow his son to go on such an adventure.

★<WHILE READING ACTIVITIES>

Hoshino's dream

16 years old ... His first trip to America

• NOWADAYS: It is easy to go abroad

• IN THE PAST: It was difficult to go abroad

things have changed

DREAM ① to cross ocean by ship + ② to hitchhike across America

Realizing his dream

What did the following person/people do before Hoshino's journey?

- Hoshino - He got part-time jobs to save money.
- Hoshino's father - He became interested in Hoshino's plan and gave Hoshino money for the trip.
- People around Hoshino's father - They would tell Hoshino's father not to allow his son to go on such an adventure.

本文に書いてあることのみを説明するような形になってしまい、やや単調になってしまった部分もあるが、生徒と内容について英語でやりとりはできた。ワークシートがあることで、生徒は何を聞かれているのかが想像でき、答えやすかったようだ。一方で、ワークシートに答えを書き写すことに集中してしまい、英語を「聞く」ことに意識がいかない生徒もいた。ワークシートを作成する場合は空所を短くする、長い文章を答えさせたい場合はワークシートには設問を書かずに口頭でやりとりするなど、教師が生徒に何をさせたいかをよく考える必要がある。

事例 4 教師による英語での内容解説と生徒 同士での 英問英答

ア 指導手順 (Lesson 2 Section 3 での指導例)

- (ア) ワークシート<資料 3>を配布する。
- (イ) 教師が本文の内容についておおまかに英語で説明し、生徒に必要事項をワークシートにメモさせる。
- (ウ) 教師が説明しなかった部分について、生徒同士で英問英答をさせる。
- (エ) いくつかのペアに、自分たちが作成した英問を発表させる。他の生徒には、英問の答えをワークシートに書かせる。
- (オ) 生徒が発表で触れなかった内容については、教師が英語で質問し、英語で答えさせる。

<資料 3 >

★<WHILE READING ACTIVITIES>

Section 3

San Francisco, New Orleans, Atlanta, Nashville

Creep, hound

A, B, C, D

MIXTURE

nostalgia = remembering good things about the past

懐かしさ

思い出

★<INTERVIEW ACTIVITY> ※Ask questions and get information about things that were not talked about in the WHILE READING ACTIVITY.

Q1. How did you feel when traveled with the family?

A1. I felt that I was part of that family.

Q2. Why did the parents decided to pick you up?

A2. Because their kids told them (to) go back and pick me up.

イ 留意点

- (ア) その後の活動に意味をもたせるため、最初に内容の説明をする際は、細かい部分までは触れないようにする。

生徒自身に問題を作らせるペアワークを取り入れたため、生徒を主体的に授業に関わらせることができた。教師が本文全体を説明してしまう場合に比べて、生徒の英語での発話量を増やすことができた。また、英問に答えるためには質問を聞かなければならないため、「聞く」必然性を作り出すことができた。生徒に「聞く」ことの目的を明確にさせることが重要である。

ワークシートは回収し、生徒が作成した英問を教師がまとめ、次時に復習として生徒に口頭で答えさせた。

事例 5 筆者の主張の読み取り

ア 指導手順

- (ア) 比喩表現が入っている文や、心情描写が含まれている文など、生徒に文の意味を深く考えさせたい文章を教師が読む。
- (イ) 筆者がその文章を通して伝えたいことは何かをペアで考えさせる。

- (ウ) 教師が英語で質問をしながら、生徒に自分たちが考えたことが合っているかどうかを確認させる。
- (I) 英問の答えを参考にしながら、生徒に自分の解釈が合っているかどうか、もう一度ペアで考えさせる。
- (オ) いくつかのペアを指名し、それぞれの解釈について発表させる。

イ 留意点

- (ア) 「ア 指導の手順」の(ウ)で尋ねる確認のための質問は、具体的で分かりやすいものにし、生徒が答えやすく、正答を確認しやすいものにする。
- (イ) 生徒にとっては難しいと感じる活動であるので、不安を減らすために常にペアワークで実施する。

Lesson 2 Section 4 での指導例

著作権保護のため、この部分は
非公開とします。

①について

→本文では、「筋書きのない物語のなかで生きている」と例えているが、結局何が人生を形作っていくのかを考えさせ、筆者は何を伝えたいのかを理解させた。(英語のみでは難しいため、最初は日本語も交えて考えさせたが、最終的に答えは英語で表現させた。)

②について

→**However**に着目させ、旅を経て、筆者の生活で変わったことと変わっていないことを英語で尋ね、表面的な生活そのものは変わっていないが、内面が大きく変わり、同じものが今までとは異なって見えるようになったということを理解させた。

筆者が生徒に伝えたいことや考えさせたいことは何かを読み取らせる活動だったため、本文への理解は深まったようである。抽象的なことについて英語で思考し、表現することは、1年生にはまだ難しい活動である。「筆者は何が言いたいのですか?」という質問では生徒は答えにくくなると考え、「何が人生を形作るのか」「何が変わっていないか、何が変わったのか」というように、なるべく具体的に質問し、筆者の主張に気付かせるように工夫した。ペアワークを取り入れることで、少し難しい活動でも助け合いながら自分たちなりの答えを導こうとする姿勢が見られた。

事例6 日本語ワークシートを基にした Story Retelling

ア 指導手順 (Lesson 3 Section 2での指導例) <資料4>

- (ア) 事前に本文の内容をまとめたワークシート<資料4>を配布し、日本語で穴埋めをさせておく。
- (イ) ワークシートの内容についての教師の英語での質問に対して、ワークシートを見ながら英語で答えさせる。

イ 留意点

- (ア) ワークシートを英語で作成すると本文の抜き出しになってしまうため、日本語での穴埋め形式にする。
- (イ) 内容が整理しやすいワークシートを作成する。穴埋めをする箇所も、質問部分にしたり、答えの部分にしたりする。形式も箇条書きにしたり番号をふったりする。

本文が、エジプト政府がダムを造る決断に至るまでの過程を追っていく構成だったため、フローチャートのようなワークシートを作成した。あえて日本語のワークシートにし、授業では英問英答などを通して、英語で確認することにした。生徒の様子を見ながら、必要に応じて、日本語で答えを言った部分もあった。日本語から英語への翻訳のような形式になってしまったが、生徒は聞き取った質問に対して何とか英語で答えようとしていた。ストーリーの流れを追うような本文では有効な手段であると考え。事前にワークシートの穴埋めをさせたことで、本文の概要は把握している状態での活動になったため、生徒からは、「概要は分かっているので、英語で答えることに集中できるからいい」という声があった。

③ As population grew in Egypt, more electricity was needed.
Lesson 3 Abu Simbel - Rebirth on the Nile
~Section 2~

★<ORAL INTRODUCTION>

Q. What were the problems about the Nile and Egypt?

① The Nile flooded every year and farmers living along the river suffered from the disaster.
② The old dam didn't work well, so they needed another dam. Egyptians needed a new dam because the old dam didn't work well.

★<WHILE READING ACTIVITIES>

エジプト政府

● 新しいダムの建設 について考えた They thought about building a new dam.

<やりたかったこと>

① 洪水を支配する to control floods
② 電気と水を供給する to provide electricity and water for farming.

問題点の認識

● ダムを建設すると水位が上がり、数百メートルにわたり低地を水浸しにする flood the valley
→ ① そこに住んでいる多くの農民が移住しなければならぬ
→ ② 上昇する水位が最も美しい遺跡のいくつかを覆ってしまう
The rising water would cover some of the greatest monuments of Egypt.

熟慮・会議

● 会議のテーマ①... 人と遺跡のどちらが大切か?
build a dam or not build a dam → they will disagree water for Is it possible to build a dam and save Abu Simbel at the same time?

● 会議のテーマ②... ダムを建設し、同時にアブシンベルを守ることはできるか?

決断

● 新しいダムの建設が決定された。 It was decided to build a new dam.

事例7 自分で描いた絵を用いての英語での本文説明

ア 指導手順 (Lesson 3 Section 3の指導例)

- (ア) ワークシート<資料5>を配布し、本文を読んで絵を描かせる。
- (イ) 描いた絵を、ペアで確認させる。その後、生徒を指名し、黒板に絵を描かせる。
- (ウ) 教師が黒板の絵を用いて、本文の内容を英語で説明する。生徒の様子を見ながら、熟語や構文などは必要に応じて日本語で説明する。
- (エ) ペアで、自分が描いた絵を用いて本文の内容を英語で説明させる。
- (オ) 生徒を何人か指名し、クラス全体に英語で絵の説明させる。

イ 留意点

- (ア) 最終的には教科書を見ないで **Story Retelling** ができるように、段階的に指導する。
- (イ) 絵だけでは本文の内容を全てカバーできないため、ワークシートに英問英答を入れ、教師が絵を用いて説明するとき、併せて英問英答をする。





本文の内容を読み取り、それを絵で表し、その絵を用いて本文を自分なりの言葉で説明するという活動だったので、日本語をあまり介さずに実施できた。最終的には **Story Retelling** 形式の表現活動になった。ペアで練習してから前に出て発表させたため、指名された生徒は教科書を見ずに、自分の言葉で発表できていた。教師によるモデルの提示→十分な練習→発表という段階を踏んだこともあり、英語で発表することへの生徒の不安を軽減することができた。

<資料5>

Lesson 3 Abu Simbel - Rebirth on the Nile --
~Section 3~

★<PREPARATION QUESTIONS>

(1) Draw pictures to show each country's plan to save Abu Simbel.

Polish scientist's plan	
American scientist's plan	
British scientist's plan	
The adopted plan (Swedish scientist's plan)	

(2) 教 Q What was the Polish scientist's suggestion? How about the American's plan?
It was building domes over the temples.
It
American's plan was to build a boat supporting the temples (so that when the water rose, the temples would also rise)

(3) 教 Q What kind of plan did the Egyptian government decide on?
They decided on the plan ~~to~~ ^{to} build a cliff.
The plan was ~~to~~ ^{to} move the temples to a cliff 64 meters above.

(4) 教 Q How long did the work on Abu Simbel take?
They took four and a half years.
It

(3) 「表現活動・定着活動」に関する活動

事例8 ペアでの意見交換

ア 指導手順

- (ア) 本文の内容理解の後、そのセクションで読み取りのカギとなる部分について口頭で質問をする。教師が何回か質問を繰り返した後、何と問いかけているかをペアで確認させ、その後、質問を板書する。
- (イ) ワークシート<資料6>を配布し、自分の意見を書かせる。
- (ウ) ペアで意見を述べさせる。
- (エ) 自分が聞き取った相手の感想や意見を、ワークシートに書かせる。
- (オ) 相手の意見に対する感想や意見を伝えさせる。
- (カ) 何名かを指名して、発表させる。発表の後、その意見に対する感想などをクラス全体に聞く。
- (キ) ワークシートは提出させ、添削し、返却する。

イ 留意点

- (ア) 英語での活動とする。
- (イ) 最初からワークシートは配布せず、質問を聞き取らせる。
- (ウ) 相手の意見や感想の要点をワークシートに書かせる。相手が言ったことを全て書くのではなく、要点を書くように指導する。

Lesson 2 での質問例

Section 1 …“What would you do if you were Michio’s father?”

(自分に立場を置き換えて考えさせる質問)

Section 2 …“If you can travel abroad, do you want to plan things carefully before you go?

Or do you want to decide where to go on the spot?”

(自分に立場を置き換えて考えさせる質問)

“What do you think was ‘an idea’ which Hoshino had after sleeping in the wilderness?”

(心情を推測させる質問)

Section 3 …“Is there any smell/sound/taste which makes you remember something?

What is that?”

(筆者の状況をより深く理解させる質問)

<資料6>

★<FURTHER READING>

Q(1) What would you do if you were Michio's father?


[Your Opinion]
I would agree with his ^{plan} because it is important to go abroad alone.

[Your Partner's Opinion]
She would be against him because he is too young to go abroad alone.

Q(2) Very good!

[Your Opinion]

[Your Partner's Opinion]



事前アンケートで「もっと意見を英語で言えるようになりたい」という意見を書く生徒が多かったため、この活動を実施した。生徒は何とか自分の意見を伝えようと積極的に取り組んでいた。また、相手の意見を聞いて、感想を伝えたり、自分のワークシートに書き留めさせたりしたので、相手の意見を聞き取らなければならない必然性を作ることができた。ワークシートに書き残させることで、教師が添削をし、それを生徒が見直すことができ、自分の間違いにも気付く機会を与えることができた。英語が苦手な生徒への配慮もあり、書いてから話すという形式で実施したため、本来の「話す」活動にはなっていない。徐々に即興で意見を話せる力を付けていくことを考えていかなければならない。

事例9 Story Retelling

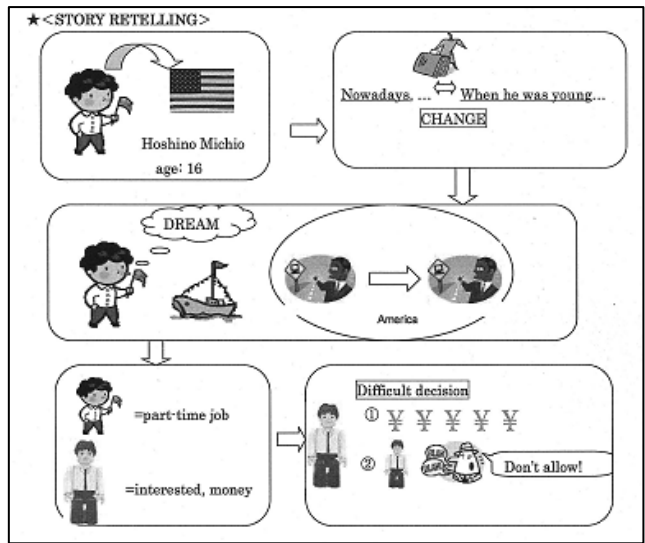
ア 指導手順 (Lesson 2 Section 1 の指導例)

- (ア) 本文の流れが分かるようなキーワードや絵を載せたワークシート<資料7>を配布する。
- (イ) 教師がワークシートを用いて、Story Retelling のモデルを示す。
- (ウ) 生徒にペアで練習させる。
- (エ) 生徒を指名し、一人1文ずつ retell させて、一つのストーリーにさせる。

イ 留意点

(ア) 本文どおりの再現でなくてもよいことを伝えるため、教師がモデルを示す際は、本文を言い換えて **Story Retelling** をする。 <資料 7 >

本文の内容理解を踏まえ、自分の言葉で内容を伝えるということを目指しこの活動を実施した。モデルとなる本文をそのまま「まねる」ことは確かに有効だが、それは音読や置換法（事例 10）で実施していることなので、この活動では自分の言葉でストーリーを再現するように指導した。生徒は一生懸命に取り組んではいたが、教科書の丸暗記に近い状態になってしまう生徒もいた。この点を考えると、一つのセクションという短い区切りではなく、1レッスンの **Story Retelling** の方が効果があるように感じた。



事例 10 置換法によるペアでの音読練習

ア 指導手順

- (ア) 「置換法プリント」 <資料 8 > を配布する。
- (イ) ペアにさせ、一人に「置換法プリント」を見ながら、本文を音読させる。日本語になっているところは、英語に直しながら音読させる。
- (ウ) もう一人には教科書を見ながら、自分のペアの音読が合っているか確認させる。自分のペアが英語を思い出せなかったり、間違ってしまったときは、ヒントを与えるよう指示をする。
- (エ) 役割を交代しながら、何度か音読練習をさせる。
- (オ) 復習として、次の時間に、日本語の部分を英語で書かせる活動を行う。

イ 留意点

- (ア) 新出単語や熟語など、このセクションで定着させたい表現は日本語にする。

教科書で何度か音読練習をした後に行う、自分で英文を組み立てたり、単語を思い出したりするという作業を加えた活動であり、毎セクションで実施している。

<資料 8 >

Lesson 3 Abu Simbel 置換法プリント
~Section 4~

最初は (2語), no one could 思いつく (2語) a way to 解決する the problem of Abu Simbel. Should they 犠牲にする a monument 改善するために (4語) the lives of the people? Or should they 犠牲にする the 幸福 of the people to save a monument? 実は (2語), there was a third way. Human 創意工夫 and international cooperation found a third way.

The new dam, the High Dam at Aswan, has 大いに improved the lives of 何百万もの (2語) people, and the great temples of Abu Simbel are still there. Ramses II is still 監視している (2語) his kingdom on the Nile. What kind of human history do you think he will see in the next 3,000 years?

1 - ____ no. ____ name _____

どこを日本語にするかで活動のレベルを調節することができる。また、生徒も本文のポイントがどこなのかが明確に分かる。英文の構造や熟語を意識させながら読ませることもできる。レベルが高すぎると、全員が終わるまでに時間がかかったり、生徒のモチベーションが下がったりするので、バランスを考えてワークシートを作成した。英語が苦手な生徒とペアになった生徒が、やりにくそうにしているという場面もあったので、教師が声かけを工夫する必要もあった。

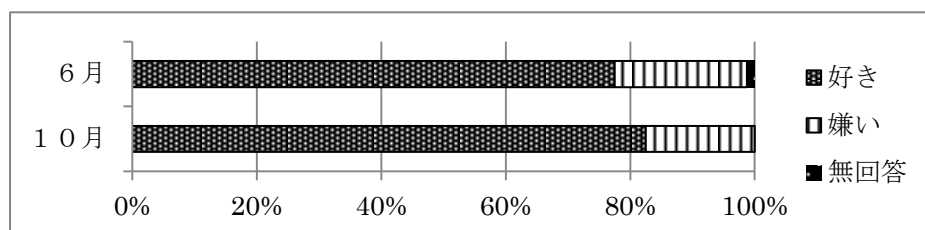
4 検証とまとめ

(1) 事後アンケートによる検証

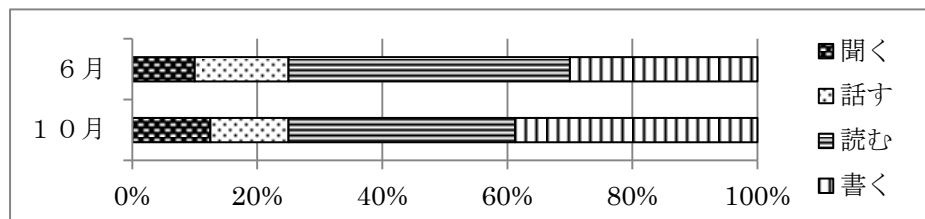
これまでの活動を通して生徒の意識がどのように変化したかを確認するために、同じ80名を対象に、事前アンケートと同じ内容のアンケートを実施した。

ア アンケート結果

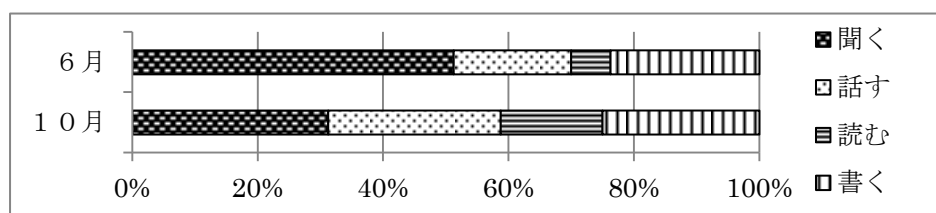
1 あなたは英語が好きですか？



2 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も得意なことは何ですか？

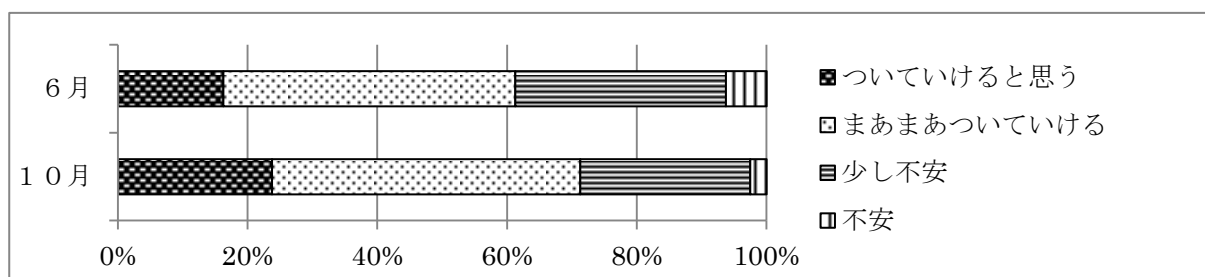


3 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も苦手なことは何ですか？

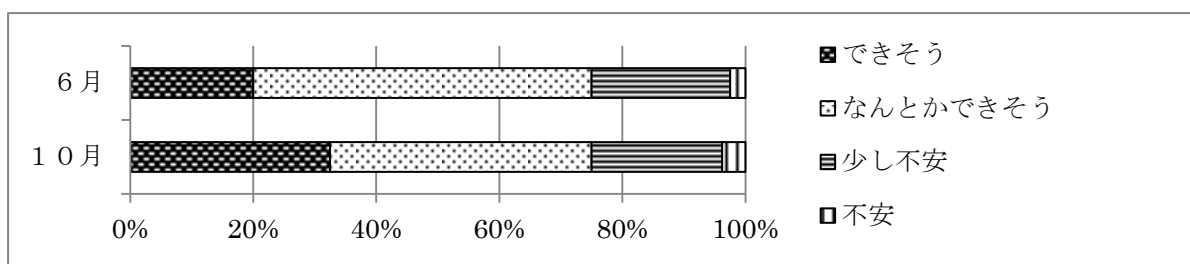


4 生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするために授業を英語で行うことについて、あなたはどのように思いますか？

① 先生がたくさん英語で質問したり、説明したり、指示をしたりすることについて。



②自分が英語で質問に答えたり、ペアワークをしたり、発表をしたり、意見を書いたりすることについて。



イ アンケート分析（6月と10月の比較）

4技能のうち得意なものとして「書く」ことを挙げるものが大幅に増えた。その理由としては、「話す」活動の前段階として、まずワークシートに意見などを「書く」作業を入れているからと思われる。即興で話すという活動はまだ不足しており、生徒に「話す」ことに対する自信をつけさせるには至っていない。一方で、「聞く」ことを苦手とする生徒数が減っており、なるべく教師が英語で話したり、ペアワークで相手の話すことを理解しなければならない必然性を設けたりしたことが一定の効果を上げたのではないと思われる。

4①にあるように、教師が授業を英語で行うことに対する不安感については6月と10月で大きな変化は見られなかったが、「ついていける」「まあまあついていける」が少しではあるが増加し、自信がついた生徒が増えたようである。しかし、約3割の生徒は不安を抱えたままであった。

(2)まとめ

内容理解を英語で進めること、本文の内容について自分の意見を持ち英語で述べることの2点を中心に今回の研究を行ってきた。

生徒に英語で内容理解をさせるためには、教師側が本文を読み込み、どのような順序で何を重点化して理解させるかなどを綿密に計画しておかなければならないということを強く実感した。内容の大筋をつかませたいセクションと、行間を読ませたり筆者の主張を深く読み取らせたいセクションでは、準備するワークシートや授業中に実施する活動、教師の発問も異なる。また、一方的に教師が英語で説明しても生徒の集中力は続かず受け身の授業になってしまうため、発問を工夫して生徒に答えさせたり、ペアワークのような活動を入れたりすることで、生徒が能動的に参加できるような授業になるよう配慮した。教師にも、文章の構成や筆者の主張をより深く読まなければならないという姿勢が身に付き、結果的に様々な角度から教材研究ができたと思う。

事前アンケートから、生徒は自分の意見を英語で伝えられるようになりたいと思っていることが分かったため、本文の内容について自分の意見を持ち英語で述べさせるという活動を多く取り入れてきた。授業後のアンケートでは、この時間をもっと増やしてほしいという意見が多くあった。生徒が、本文にない表現も使用しなければならない場面も多くあったが、自分の意見を述べるために必要な表現であれば、覚えたいという気持ちも強くなるようであった。生徒の中には、本文をそのまま答えるのではなく、質問に応じて自分の言葉で置き換えるパラフレーズができるようになってきた生徒もいる。

しかし、どの事例においても、準備段階で教師がイメージした展開になったというわけではない。分かりきっている内容を英語で説明してしまい飽きさせてしまったり、発問の意図が伝わら

なかつたりすることもあった。しかし、予想外の解答で他の生徒の理解が深まったり、表現の幅が広がったりするなど、授業が活発になることの方が多かったのも事実である。

「正確に読める力」を身に付けさせることも英語教師には求められる。そのためには日本語による解説はどうしても必要になる場合もある。英語でのコミュニケーション力を伸長させるためには、「正確に読める力」と「英語を使える力」の両観点をいかにバランスよく時間配分して指導していくかを常に意識することが求められると考える。